

公益財団法人 中山人間科学振興財団
第26回（平成29年度）テーマ

「ヒトとキカイの共進化」

趣意書

近年、生命科学と情報技術の境界領域に注目が集まっている。これは、アンドロイドやロボティクス、またエンハンスメント技術の高度化、さらにブレイン・マシン・インターフェイス(BMI)やバイオインフォマティクスの進展など、各分野の急速な発展によるところが大きい。さらに、“CRISPR/Cas9”などゲノム編集技術のブレイクスルー、「ディープラーニング」に代表される人工知能研究の興隆も、この領域への期待を高めることに寄与しているといえる。

このような状況をマクロに見るならば、あたかもヒトがキカイを取り込み、またキカイがヒトに近づいていくような姿が浮かび上がってくる。遠い将来、もしかすると両者は融合し、「人間観」自体が変容する可能性も否定できない。いずれにせよ、「ヒト」と「キカイ」が互いに相互作用をしつつ、いわば「健全に共進化」していくような未来が望まれているのは確かであろう。

そこで本年度は、広い意味でこのような「共進化」に寄与しうる、先進的で意欲的な研究に光を当てたい。その軸足が生命科学であっても、また情報技術であっても良い。さらに、その倫理的・社会的問題を検討する人文社会科学系の研究も歓迎する。ただしいずれも、生命科学と情報技術の両方に関わる、学際的な性格を備えていることを条件としたい。現在ホットなこの領域における、優れた研究の推薦や研究計画が集まることを、期待してやまない。